

○第37回かび毒・自然毒等専門調査会

日時：平成27年12月14日（月）14：00～16：10

議事概要：

フモニシンの食品健康影響評価について

- ・「フモニシンに係る食品健康影響評価に関する調査」の進捗状況と今後の予定について事務局から説明が行われた。
- ・フモニシンの遺伝毒性の知見について事務局から説明が行われ、今後、ウマの脳白質脳症やブタの肺水腫、ヒトの神経管閉鎖障害に関する毒性及び疫学的知見や発がん性に関する知見について確認した上で、引き続き遺伝毒性について審議を行うこととされた。
- ・フモニシンの汚染実態調査の結果とばく露量推定について事務局から説明が行われ、審議の結果、日本におけるフモニシンばく露量推定については、厚生労働科学研究の結果を用いることとされた。
- ・平成27年度食品安全確保総合調査「フモニシンに係る食品健康影響評価に関する調査」中間取りまとめ報告書（案）について事務局から説明が行われ、報告書（案）の校正や内容に係る修正意見等については、事務局から調査事業実施者に伝えることとされた。

\*フモニシン：主に *Fusarium* 属が産生するかび毒。

世界各地のトウモロコシから高濃度、高頻度に検出される。

ウマで脳白質脳症、ブタで肺水腫といった臨床症状を示し、ヒトでは神経管閉鎖障害との関係が示唆されている。